

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	木曽ペインティングス
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 木曽アート (080-3670-2881)
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくり (3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,701,025 円 (うち支援金 : 1,795,000 円)

事業内容

アーティスト滞在施設・藤屋レジデンスを主な拠点とし県内外アーティストが木曽に滞在して木曽を素材や題材にした作品制作・展示を行う芸術祭「千年のすみか／三時の光」を木祖村(藪原・小木曽)と木曽町(宮ノ越)で開催した。初めての試みとして地元郷土史家・澤頭修自先生の写真や建築家ユニット裕雅JVの建築物、ダンサー・振付家・コマ撮映像作家の武井琴さんの展示など、他ジャンル作品も加わる展覧会となった。その他芸術祭参加アーティストによる木曽町中学校や木祖小学校等での課外授業やワークショップの開催、地元企業共同での木曽路オリジナルラベル商品の販売、芸術祭オープニングイベントパフォーマンスの開催(写真)や長野県立美術館主催の展示「木曽馬に引かれて善光寺」開催と、同展オープニングイベントで木祖村のスタア達や地域サークルのショーと子供たちの藪原祭りの紹介、木曽節斉唱を行い木曽地域の魅力を発信した。



【オープニングイベント三時の光】

【目標・ねらい】

- ①空き家活用
- ②美術教育の充実
- ③文化芸術振興、観光振興

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。
①滞在施設を含め村内8箇所の空き家を活用し芸術祭を開催したがアーティストが入り掃除・片付け作業を行う事で地域住民も好意的な声掛けや道具貸し出しの申し出等の協力があ交流が生まれた。また整え展示する事で魅力的に生まれ変わった家はモデルハウスの役割を担い、住居兼店舗物件を探す人等が藪原宿を度々訪れていた。移住や試住のために必要不可欠な空き家情報の提示と内覧が同時に行えた。

②国内外で活動するアーティストが、主に地域の子供達を対象に身近な題材をもとに広い視野や発想の転換、多様性といった“とらわれない視点”を養う授業やワークショップを開催した。戸惑いながらも熱心に取り組む子供たちの姿が見られた。

③コロナ禍の芸術祭オープニングイベントは配信のみで実際の集客は殆ど考えていなかったが、地道に木曽で活動するドキドキシティーボーイズのファンも加わり松本や木曽地域のあちこちから60名程が集まり駐車場が満車となった。また県立美術館での展示やオープニングイベントで木祖村のスタア存在を知った松本在住女性は木祖村までやって来てスタアの職場を見学し、自身の経営するライブハウスへのオファーもあり反響があった。芸術祭ではコロナ禍ながらも芳名帳記帳者数だけで2,247名の来客があり、芸術祭や活動への関心の高さがうかがえる集客数となった。

※自己評価【A】

【理由】木祖小学校で3回、木曽町中学校で1回の課外授業を実施し作品を発表出来た点。合計観客数は目標を越え2,600人以上、毎年鑑賞しているという声を多数聞け関心の高さが窺えた。芸術祭をきっかけに大家の意識変化があり空き家の次の活用に向けての動きに繋がった。また長野県立美術館主催の木曽ペインティングスの活動を紹介する展示で、木曽の人々と一緒に魅力ある木曽をPR出来た点。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

回を重ね知名度が上がる事で県内アーティストの参加希望者が増えてきた。来年度は信州生まれの若いアーティストにも参加してもらいたい。アーティストインレジデンス施設・藤屋を更に有効利用し、町村や地域コーディネーターとより協力し合い地域の文化や歴史に興味のあるアーティストや人材と地域の有識者等を繋げたい。アクセスの悪い地域でも芸術祭やワークショップ等を開催し、普段なかなか足を延ばせないような地域に人を呼び込み地域や住民を知ってもらおう機会を作り、いずれ木曽地域全体で連携イベントや芸術祭が出来るように様々な取り組みをしている人達との繋がりを強めていきたい。木曽地域に暮らす私たちが、【木曽】を自分の暮らす町村だけに限定せず木曽全域をイメージできるような取り組みを模索していく。地域の資源や素材を活用し地域の子供達への課外授業やワークショップも継続的に行っていきたい。木曽地域の文化や暮らし、資源から生まれるアートを追及し続け木曽ペインティングスの活動や地域の魅力を発信する事で木曽地域への移住者や観光客増加にも繋げたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある